

令和元年度（2019年度） 保育所の自己評価 評価結果

評価項目	評価結果	評価結果・具体的事例および改善方法
<p>保育の方針 1</p> <p>子どもが人格を形成していく上で、自己肯定感を持つようにすることが大切である。職員は、子どものあるがままを受け止め、自分の意思を自由に表現できるように保育の中で援助していく。</p>	70%	<p>保育者は、どんな場面でも子どもの気持ちに寄り添い、温かく受け止め、深く共感しながら肯定的な声掛けが実践出来るよう心掛けてきた。</p> <p>子どもにどのような配慮や援助をしていくべきか、園全体で話し合い、今後も自己肯定感の育成に努めていく。</p>
<p>保育の方針 2</p> <p>子どもが保育園生活をおくる上で必要なルールを知らせるとともに、人にはそれぞれ違いがあり、その違いを認め合うことを伝えていく。</p>	71%	<p>保育の中でルールを守る大切さを学べるように働きかけ、子ども達が自己解決できるよう援助してきた。また、個々の良い所を伝え、お互いが認めあえるような働きかけを行い、子どもが多様性を受け止めることが出来るよう努めていく。</p>
<p>保育の方針 3</p> <p>人の成長には豊かな経験が必要であり、特に乳幼児期においてはそれが実体験でなくてはならない。人的・物的な環境を整え、自然に集団となつてあそぶ中で様々な体験ができるようにしていく。</p>	77%	<p>自然環境豊かな地域性を生かし、園内外での様々な実体験が充実出来るようにしてきた。今後、異年齢クラスでの交流を積極的に行い、様々な体験が出来るようにするなど、保育士の質の向上にも努めていく。</p>
<p>食育</p> <p>食事は子どもの身体的成長の基本であり、心豊かに食を楽しみながら自然の恵みに感謝し、子どもの命を守る大切な事項である。年齢にあった調理方法や栄養のバランスはもとより、食習慣の確立・栄養教育・心の健康づくりという目的に応じて一人ひとりの子どもに配慮する。</p>	71%	<p>野菜の栽培を通しての水やり、配膳の手伝い、食材の下処理、食事の盛り付け体験など各年齢で出来ることを経験してきた。また、保護者には食の重要性を伝えてきた。</p> <p>今後も食を楽しめる環境づくりや食への配慮に努めていく。</p>
<p>子育て支援</p> <p>子どもの健やかな育ちを保障するため、家庭との連携を深めるとともに、在園児保護者及び在宅の子育て家庭における養育力が向上するよう援助していく。</p>	66%	<p>保護者の声に耳を傾け、寄り添い、思いを受け止める支援をしてきた。子どもの育ちを保障するためにも、家庭との連携を深めていく。</p> <p>在宅子育て家庭については、親育てや育児不安解消に努めていく。</p>
<p>職員の資質向上</p> <p>保育者に求められる専門性や倫理観を高めるため、保育の質の確保に向けた取り組みを組織的に行う。</p>	51%	<p>外部の研修への参加や園内での研修が不十分だった点があった。</p> <p>今後は、参加した研修等で得たものを職員間で共有し、意見交換を行い保育の質の向上に取り組んでいく。</p>
<p>安全管理と災害への備え</p> <p>日々、子どもたちの健康に留意するとともに、災害や事故に対する準備と心構えを持ち、それに係る訓練などを欠かさずに、子どもの安心・安全を守る。</p>	70%	<p>子どもの健康状態や伝達事項を共有出来るようになってきた。また、ヒヤリハットについても朝礼や職員会議で報告し、子どもが安心して安全に過ごせるように努めていく。</p>